

ひきこもり・ニート 教育支援



2020.12.13 濱田豊彦



【保護者から過干渉】

小学生の保護者調査(聴児の親との比較2012)

「一緒に遊ぶ」「学校の手伝いをする」「学校行事に参加する」「友達や先生の話をする」で聴障児の親が10ポイント以上高い

→聴児の親より頻繁にかかわっている

「子どもを見ているとつい不安になる」聴障児の親が10ポイント以上高い

「将来や進路について話しをするか」では聴児よりも10ポイント以上低かった

親の期待と自分の希望のバランスをとる

→自身を客体化してとらえる力（メタ認知）

【聴力低下】

(障害認識)を身に着けても、困難状況が変化するために混乱が生じる。

混乱状況に「友人関係」「保護者の障害受容」の変化も伴う→一層複雑

※荒波を乗り越えるための港が必要に

引きこもり（不登校）の基にある混乱を共有

→子どもの価値を最大限見出す

【柔軟さを大切に】

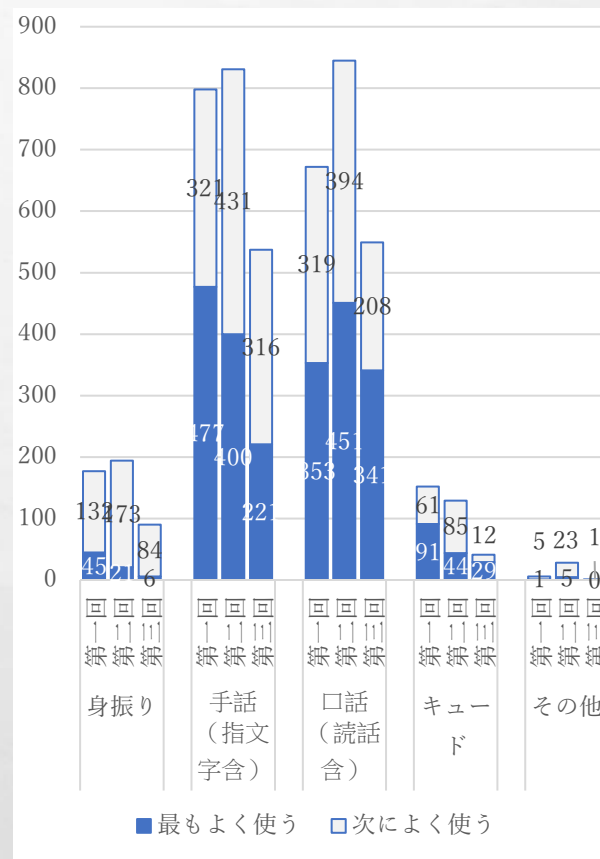
多様な存在と対等に付き合う経験が不足

→社会性の成長を阻害(ある種の硬さ)

社会が狭いと逃げ場がない(ろうの仲間からの強い当たり)

→引きこもりの原因に

コミュ手段も多様化(大鹿2019)し、かつてのプロトタイプが少なくなった。



スクールカウンセラー(**SC**)への期待

個々のコミュニケーション手段を尊重して関われるSCが重要

→介入の効果 自身の思いを伝えることで、自身も気づかなかった自分の思いに気づく

(自分を客体化してとらえる＝メタ認知)

課題1) 個人情報 は最大限尊重されなければならないが、事象を抽象化し一般化してほしい。

※大学でドロップアウトする学生の多くが中学でいじめを経験

課題2) 家庭など環境調整を必要とするケースはスクールソーシャルワーカーが必要だが、特別支援学校への配置は遅れている。

これからの学校が目指すもの OECD（経済協力開発機構）の目指すもの

- 教育の分野における目的は、（中略）先進諸国が連携・協力して、国際的な調査・研究及び、比較分析を行うとともに（中略）、各国における教育改革の推進と教育水準の向上に寄与すること（文部科学省HP）
- コンピテンシーとエイジェンシー

コンピテンシー:うまくいってる者の共通点？

単なる知識や技能ではなく、複雑な需要に応じる能力としてOECDは、3つのキー・コンピテンシー(Competency)を示している

1. 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力

A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に活用する能力

B 知識や情報を相互作用的に活用する能力

C テクノロジーを相互作用的に活用する能力

2. 多様な社会グループにおける人間関係形成能力

A 他人と円滑に人間関係を構築する能力

B 協調する能力

C 利害の対立を御し、解決する能力

3. 自律的に行動する能力

A 大局的に行動する能力

B 人生設計や個人の計画を作り実行する能力

C 権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力

求められているものが、必ずしも
教科指導で身につくものではない！

エイジェンシー(AGENCY)

(STUDENT AGENCY FOR 2030 仮訳 文部科学省初等中等教育局)

生徒エイジェンシーとは、変革を起こすために**目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力**として定義づけられます。

つまり働きかけられるというよりも**自らが働きかけること**であり、型にはめ込まれるというよりも**自ら型を作る**ことであり、また他人の判断や選択に左右されるというよりも**責任を持った判断や選択を行う**ことを指しています。

生徒が自らの学習のエージェント(agents)であるとき、(中略)生涯を通して使うことのできる「**学び方**」という**かけがえのないスキル**を身につけていくことにもなりうるでしょう。